

## 学校保健統計からみる学童・生徒のぜん息発症率の経年変化

毎年4月に全国で実施される小・中学生・高校生の健康診断で、ぜん息と診断された学童、生徒のぜん息患者率が公表されています。

東京都および全国について1987年から2020年までの平均ぜん息患者率の変化をグラフにしました。

- ① 東京都の平均ぜん息率は2005年までに急激に高くなり、2010年頃が最も高く、やっとなだらかに低くなっていく傾向が認められます。
- ② しかし、まだ1990頃の状態には戻っておらず、現状は高止まりの状態です。
- ③ また、東京都は全国平均と比較すると依然としてかなり高い状態にあります。

なお、学校保健統計で公表されるぜん息患者率は、判断基準に偏差があり、全体として実態よりも低く表わされる傾向があるとの識者の指摘もあり、注意が必要です。

